

第 6 章 着信デフォルト情報の設定

6.1 発信者番号 (CLID) で相手が判別できないときの着信動作情報

6.1.1 answer accept

【機能】

発信者番号非通知あるいは発信者番号非登録相手からの着信動作の設定

【入力形式】

answer accept <mode>

【パラメタ】

<mode>

- enable
着信を受け付けます。
- disable
着信を受け付けません。

【説明】

発信者番号 (CLID) が通知されない着信、または “5.2.24 remote ap called number” で設定したいずれの番号とも一致しない着信について、着信を許可するかどうかを設定します。

【未設定時】

着信を受け付けないものとみなされます。

```
answer accept disable
```

6.1.2 answer callback

【機能】

コールバック応答動作の設定

【入力形式】

answer callback <mode> [<kind> <time>]

【パラメタ】

<mode>

- enable
着信時にコールバックを行ないます。
- disable
着信時にコールバックを行いません。

以下のパラメタは<mode>が disable の場合は省略することができます。

<kind>

- cbcp
コールバック方式として「CBCP 方式」を指定します。

<time>

- コールバック待ち時間
コールバック要求着信を受理した後、相手にコールバック応答発信を行うまでの待ち時間を、0 秒～60 秒の範囲で指定します。
単位は、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

【説明】

発信者番号 (CLID) が通知されない着信、または remote ap called number で設定したいずれの番号とも一致しない着信について、コールバック応答するかどうかを設定します。

【未設定時】

着信時にコールバック応答動作を行わないものとみなされます。

```
answer callback disable
```

6.1.3 answer ppp auth type

[機能]

着信認証方式の設定

[入力形式]

answer ppp auth type <authtype>

[パラメタ]

<authtype>

着信時の認証について指定します。

- off
着信時の認証を行いません。
- pap
着信時の認証プロトコルに PAP を使用します。
- chap_md5
着信時の認証プロトコルに MD5-CHAP を使用します。
- any
着信時の認証プロトコルに MD5-CHAP または PAP を使用します。

[説明]

着信時の認証方式を設定します。

[未設定時]

着信時の認証プロトコルに MD5-CHAP または PAP を用います。

```
answer ppp auth type any
```

6.1.4 answer ppp auth receive add

[機能]

受諾認証情報の設定

[入力形式]

answer ppp auth receive add <id> <password> [encrypted]

[パラメタ]

<id>

- 受諾認証 ID

受諾認証 ID を、0x21,0x23 ~ 0x7e のコードで構成される 64 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

<password>

- 受諾認証パスワード

受諾認証パスワードを、0x21,0x23 ~ 0x7e のコードで構成される 64 文字以内の文字列で指定します。

- 暗号化された受諾認証パスワード

show コマンドで表示される暗号化された受諾認証パスワードを encrypted と共に指定します。

show コマンドで表示される文字列をそのまま正確に指定してください。

<encrypted>

- 暗号化受諾認証パスワード

<password>に暗号化された受諾認証パスワードを設定する場合に指定します。

[説明]

受諾認証情報を設定します。

受諾認証 ID、受諾認証パスワードを設定します。この認証 ID、認証パスワードは以下の場合に使用されます。

- 発信者番号 (CLID) で相手が判別できた場合
→ その相手に対する認証 ID、認証パスワードがない場合における共通認証 ID、パスワードとして利用されます。
- 発信者番号 (CLID) で相手が判別できなかった場合
→ 不特定相手着信として着信を許可するための認証 ID、パスワードとして利用されます。

[注意]

show コマンドでは、暗号化された受諾認証パスワードが encrypted と共に表示されます。

[未設定時]

受諾認証 ID は定義されません。

6.1.5 answer ppp auth receive delete

【機能】

受諾認証情報の削除

【入力形式】

answer ppp auth receive delete <id>

【パラメタ】

<id>

- 受諾認証 ID
削除する受諾認証 ID を指定します。
- all
すべての受諾認証 ID を削除対象とします。

【説明】

受諾認証情報を削除します。

6.1.6 answer ppp mp use

【機能】

着信時の MP 利用可否の設定

【入力形式】

answer ppp mp use <mode>

【パラメタ】

<mode>

MP を利用するかどうかを指定します。

- off
MP を利用しない場合に指定します。
- on
MP を利用する場合に指定します。

【説明】

発信者番号 (CLID) で相手が判別できない着信について、MP を利用するかどうかを設定します。

【未設定時】

MP を利用しないものとみなされます。

```
answer ppp mp use off
```

6.1.7 answer ppp mp bap use

【機能】

着信時の BAP/BACP 利用可否の設定

【入力形式】

answer ppp mp bap use <mode>

【パラメタ】**<mode>**

BAP/BACP を利用するかどうかを指定します。

- off
BAP/BACP を利用しない場合に指定します。
- on
BAP/BACP を利用する場合に指定します。

【説明】

発信者番号 (CLID) で相手が判別できない着信について、BAP/BACP を利用するかどうかを設定します。

【未設定時】

BAP/BACP を利用しないものとみなされます。

```
answer ppp mp bap use off
```

6.2 不特定相手着信の動作情報

6.2.1 answer ppp compress (オプション)

【機能】

データ圧縮機能の設定

【入力形式】

answer ppp compress <mode>

【パラメタ】

<mode>

- off
データ圧縮機能を使用しない場合に指定します。
- on
データ圧縮機能を使用する場合に指定します。

【説明】

データ圧縮機能を使用するかどうか設定します。

【注意】

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

【未設定時】

データ圧縮機能を使用しないものとみなされます。

```
answer ppp compress off
```

6.2.2 answer ppp mp start

【機能】

MP 利用時における初期接続リンク数の設定

【入力形式】

```
answer ppp mp start <link>
```

【パラメタ】

<link>

- MP 利用時の初期接続リンク数
MP 利用時の初期接続リンク数を、1～2 の 10 進数値で指定します。

【説明】

MP 利用時の初期接続リンク数を設定します。

コールバック応答発信時かつ MP 利用時において、最初から接続を試みるリンク数を設定します。発信に失敗した場合の再試行は行いません。

【未設定時】

初期接続リンク数として 1 を設定したものとみなされます。

```
answer ppp mp start 1
```

6.2.3 answer ppp mp resource analog

【機能】

アナログ発着信時の縮退動作の設定

【入力形式】

answer ppp mp resource analog <mode>

【パラメタ】

<mode>

- on
アナログ発着信時に縮退動作を行います。
- off
アナログ発着信時に縮退動作を行いません。

【説明】

MP 接続時に、アナログ発着信による縮退動作を行うかどうかを設定します。

【注意】

着信において縮退を行う場合には、「通信中着信通知」の契約が必要です。

【未設定時】

アナログ発着信時に縮退動作を行わないものとみなされます。

```
answer ppp mp resource analog off
```

6.2.4 answer ppp mp traffic use

【機能】

自動チャネル数制御の可否の設定

【入力形式】

answer ppp mp traffic use <mode>

【パラメタ】

<mode>

- on
スループット BOD の機能を使用します。
- off
スループット BOD の機能を使用しません。

【説明】

スループット BOD 機能を使用するかどうかを設定します。

【未設定時】

スループット BOD 機能を使用しないとみなされます。

```
answer ppp mp traffic use off
```

6.2.5 answer ppp mp traffic increase

[機能]

リンク増加閾値の設定

[入力形式]

answer ppp mp traffic increase <traffic> <time>

[パラメタ]

<traffic>

- 回線増加閾値

単位時間当たりにおけるチャネル利用率を、0～100の10進数値で指定します。

以下に、回線増加閾値の計算式を示します。

チャネル利用率(%) = 転送バイト量 ÷ 転送可能バイト数 × 100

<time>

- 増加猶予時間

トラフィックが回線増加閾値を超え続けた場合に、発信するまでの猶予時間を、0秒～3600秒の範囲で指定します。

単位は、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。

[説明]

スループット BOD 機能使用時におけるリンク増加閾値を設定します。

スループット BOD 機能を使用する場合は、本コマンドを必ず設定してください。

[注意]

指定した増加猶予時間の間、チャネル利用率が回線増加閾値を超え続けた場合にチャネル増加のための発信が行われます。

[未設定時]

回線増加閾値および猶予時間を設定しないものとみなされます。

6.2.6 answer ppp mp traffic decrease

【機能】

リンク減少閾値の設定

【入力形式】

answer ppp mp traffic decrease <traffic> <time>

【パラメタ】

<traffic>

- 回線減少閾値

単位時間当たりにおけるチャネル利用率を、0～100 の 10 進数値で指定します。

以下に、回線減少閾値の計算式を示します。

チャネル利用率 (%) = 転送バイト量 ÷ 転送可能バイト数 × 100

<time>

- 減少猶予時間

トラフィックが回線減少閾値を超え続けた場合に、切断するまでの猶予時間を、0 秒～3600 秒の範囲で指定します。

単位は、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

【説明】

スループット BOD 利用時におけるリンク減少閾値を設定します。

スループット BOD 機能を使用する場合は、本コマンドを必ず設定してください。

【注意】

設定された減少猶予時間の間、チャネル利用率が回線減少閾値を下回り続けた場合にチャネル減少が行われます。

【未設定時】

回線減少閾値および猶予時間を設定しないものとみなされます。

6.2.7 answer ppp mp order

【機能】

受信パケット順序制御の有無の設定

【入力形式】

answer ppp mp order <mode>

【パラメタ】

<mode>

- off
順序制御をしない場合に指定します。
- on
順序制御をする場合に指定します。

【説明】

MP 受信パケットの順序制御を行うかどうか設定します。

【注意】

以下に、MP 受信パケットの順序制御が無効になっていると動作に影響が出る機能を示します。

- VJ ヘッダ圧縮機能
設定にかかわらず、常に VJ ヘッダ圧縮を使用しません。
- データ圧縮機能 (オプション)
LZS アルゴリズムで、ヒストリ機能 (高効率圧縮の機能) を使用しません。

【未設定時】

MP 受信パケットの順序制御をしないものとみなされます。

```
answer ppp mp order off
```

6.2.8 answer ppp ipcp vjcomp

【機能】

VJ-Compression の利用の有無の設定

【入力形式】

answer ppp ipcp vjcomp <mode>

【パラメタ】

<mode>

- enable
VJ ヘッダ圧縮を使用する場合に指定します。
- disable
VJ ヘッダ圧縮を使用しない場合に指定します。

【説明】

VJ ヘッダ圧縮機能 (VJCOMP) を使用するかどうかを設定します。VJ ヘッダ圧縮機能は、RFC1144 に準拠しています。

【注意】

MP を使用する場合は、answer ppp mp order の<mode>に on を指定して、受信順序制御を使用してください。

MP を使用するにもかかわらず受信順序制御を使用しないと定義している場合、VJ ヘッダ圧縮機能は無条件に無効となります。

【未設定時】

VJ ヘッダ圧縮機能を使用するものとみなされます。

```
answer ppp ipcp vjcomp enable
```

6.2.9 answer ip address pool

【機能】

発信者番号非通知あるいは発信者番号非登録相手に割り当てる IP アドレス範囲の設定

【入力形式】

answer ip address pool <start> <num>

【パラメタ】

<start>

- 割り当て先頭アドレス
割り当てる IP アドレスの先頭アドレスを指定します。

<num>

- 割り当てアドレス数
(1 または 2)

【説明】

発信者番号 (CLID) が通知されない着信、または remote ap called number で設定したいいずれの番号とも一致しない着信相手に対して、割り当てる IP アドレスの範囲を指定します。

【未設定時】

割り当てる IP アドレス範囲を設定しないものとみなされます。

6.2.10 answer ip filter

[機能]

IP フィルタの設定

[入力形式]

```
answer ip filter <count> <action> <src_addr>/<mask> <src_port> <dst_addr>/<mask> <dst_port>
<protocol> <tcpconnect> [<tos>]
```

[パラメタ]

<count>

- フィルタリング定義番号

フィルタリングの優先度を表す番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

指定した値は、順番にソートされてリナンバリングされます。また、同じ値をもつフィルタリング定義が既に存在する場合は、既存の定義を変更します。

<action>

パケットを透過するかどうかを設定します。

- pass
条件と一致する場合に、パケットを透過します。
- reject
条件と一致する場合に、パケットを遮断します。
- restrict
条件と一致した場合に、回線が接続されていれば透過させ、切断されていれば遮断します。

<src_addr>/<mask>

入力フィルタリングの対象となる IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
入力フィルタリングの対象となる IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.1/24)
 - IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.1/255.255.255.0)
- any
すべての IP アドレスを対象とする場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<src_port>

入力フィルタリングの対象となるポート番号を指定します。

- ポート番号
入力フィルタリングの対象となるポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように"-"(ハイフン) を使用して指定します。
ポート番号は、","(カンマ) または"-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port>合わせて 10 個まで指定できます。
以下に、有効な記述形式を示します。

-
- 1～65535 の 10 進数値 (例: 65535 = 65535 ポート)
 - ポート番号-ポート番号 (例: 32-640 = 32 から 640 までのポート)
 - ポート番号- (例: 1- = 1 から 65535 までのポート)
 - -ポート番号 (例: -1000 = 1 から 1000 までのポート)
 - ポート番号, ポート番号 ... (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降のポート)

- any

すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<dst_addr>/<mask>

出力フィルタリングの対象となる IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)

出力フィルタリングの対象となる IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。

以下に、有効な記述形式を示します。

IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.1/24)

IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.1/255.255.255.0)

- any

すべての IP アドレスを対象とする場合に指定します。

0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<dst_port>

出力フィルタリングの対象となるポート番号を指定します。

- ポート番号

出力フィルタリングの対象となるポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように"-"(ハイフン) を使用して指定します。

ポート番号は、","(カンマ) または"-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port>合わせて 10 個まで指定できます。

以下に、有効な記述形式を示します。

- 1～65535 の 10 進数値 (例: 65535 = 65535 ポート)
- ポート番号-ポート番号 (例: 32-640 = 32 から 640 までのポート)
- ポート番号- (例: 1- = 1 から 65535 までのポート)
- -ポート番号 (例: -1000 = 1 から 1000 までのポート)
- ポート番号, ポート番号 ... (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降のポート)

- any

すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<protocol>

- プロトコル番号

フィルタリング対象のプロトコル番号を、0～255 の 10 進数値で指定します (例: ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。

0 を指定した場合は、すべてのプロトコルが対象となります。

<tcpconnect>

- yes
TCP の場合に、SYN flag だけが立つパケットを対象に含めます。
- no
TCP の場合に、SYN flag だけが立つパケットを対象に含めません。

<tos> (オプション)

フィルタリングの対象となる TOS 値を指定します。

- フィルタリング対象 TOS 値
フィルタリング対象の TOS 値を、0~ff の 16 進数値で指定します。
複数の TOS 値を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、"-"(ハイフン) を使用して指定します。
TOS 値は、","(カンマ) または"-"(ハイフン) を使用して 10 個まで指定できます。
- any
すべての TOS 値を対象とする場合に指定します。
省略した場合は、any を指定したものとみなされます。

【説明】

不特定相手着信のインタフェースに対する IP フィルタを設定します。
IP フィルタリング定義は、本装置全体で 32 個まで定義できます。

【注意】

IP フィルタは、インタフェースの入力/出力方向にプロトコル、アドレス、ポート番号を設定し、パケットを透過 (pass) するか、遮断 (reject) するかを指定します。

【未設定時】

IP フィルタリングは行わないとみなされます。すべてのパケットが透過されます。

6.2.11 answer ip filter move

【機能】

IP フィルタの優先順序の変更

【入力形式】

```
answer ip filter move <count> <new_count>
```

【パラメタ】

<count>

- 対象フィルタリング定義番号
優先順序を変更するフィルタリング定義の番号を指定します。

<new_count>

- 移動先フィルタリング定義番号
<count>に対する新しい順序を、0～31 の 10 進数値で指定します。
すでにこの番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

【説明】

IP フィルタの優先順序を変更します。

6.2.12 answer ip filter delete

【機能】

IP フィルタの削除

【入力形式】

answer ip filter delete <count>

【パラメタ】

<count>

削除するフィルタリングを指定します。

- 削除するフィルタリング定義番号
削除するフィルタリングの定義番号を指定します。
- all
すべてのフィルタリングを削除する場合に指定します。

【説明】

IP フィルタを削除します。

6.2.13 answer ip dns

【機能】

DNS サーバアドレスの設定

【入力形式】

answer ip dns <dns>

【パラメタ】

<dns>

- DNS サーバアドレス
相手装置に通知する DNS サーバアドレスを指定します。
0.0.0.0 を指定した場合は通知しません。

【説明】

相手装置から IPCP 機能を用いて DNS サーバアドレス通知要求を受けた場合に、<dns>で設定した IP アドレスを通知します。本コマンドによる設定がない場合は通知しません。

【未設定時】

DNS サーバアドレスの通知を行わないものとみなされます。

```
answer ip dns 0.0.0.0
```

6.2.14 answer ip tos (オプション)

[機能]

TOS 値書き換え条件の設定

[入力形式]

```
answer ip tos <count> <src_addr>/<mask> <src_port> <dst_addr>/<mask> <dst_port> <protocol>
<tos> <new_tos>
```

[パラメタ]

<count>

- TOS 値書き換え定義番号

TOS 値書き換え対象の定義番号として、0～31 の 10 進数値を指定します。

指定した値は、設定完了時に順方向にソートされてリナンパリングされます。

また、指定した定義番号と同じ値をもつ TOS 値書き換え定義が既に存在する場合は、既存定義の値を変更します。

<src_addr>/<mask>

- any

すべてのアドレスを TOS 値書き換えの対象とする場合に指定します。

0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<src_port>

TOS 値書き換え対象となる送信元ポート番号を指定します。

- ポート番号

TOS 値書き換え対象となる送信元ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。

複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。

また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように"-"(ハイフン) を使用して指定します。

ポート番号は、","(カンマ) または"-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port>合わせて 10 個まで指定できます。・any すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<dst_addr>/<mask>

TOS 値書き換え対象となる宛先 IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- 宛先 IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)

TOS 値書き換え対象となる宛先 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。

- any

すべてのアドレスを TOS 値書き換えの対象とする場合に指定します。

0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<dst_port>

TOS 値書き換え対象となる宛先ポート番号を指定します。

- ポート番号

TOS 値書き換え対象となる宛先ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。

複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。

また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように"-"(ハイフン) を使用して指定します。

ポート番号は、","(カンマ) または"-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port>合わせて 10 個まで指定できます。

- any

すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<protocol>

- プロトコル番号
TOS 値書き換え対象のプロトコル番号を、0～255 の 10 進数値で指定します
(例: ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。
0 を指定した場合は、すべてのプロトコルが対象となります。

<tos>

- 書き換え対象 TOS 値
書き換え対象 TOS 値を、0～ff の 16 進数値で指定します。範囲指定する場合は、「0-ff」のように"-"(ハイフン)を使用して指定します。また、複数指定する場合は、","(カンマ)を区切りとして 10 個まで指定できます。
- any
すべての TOS 値を、TOS 値書き換えるの対象とする場合に指定します。

<new_tos>

- 書き換え TOS フィールド 値
書き換え TOS フィールド 値を、0～ff の 16 進数値で指定します。

[説明]

TOS 値書き換え条件を設定します。条件に一致したパケットの TOS 値を、指定した値に書き換えます。
TOS 値書き換え定義は、本装置全体で最大 32 個まで定義できます。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

TOS 値書き換えを行わないものとみなされます。

6.2.15 answer ip tos move (オプション)

【機能】

TOS 値書き換え条件の優先順序の変更

【入力形式】

```
answer ip tos move <count> <new_count>
```

【パラメタ】

<count>

- 対象 TOS 値書き換え定義番号
優先順序を変更する前の TOS 値書き換え定義番号を指定します。

<new_count>

- 移動先 TOS 値書き換え定義番号
<count>に対して、新しい順序を指定します。
すでにこの番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

【説明】

TOS 値書き換え条件の優先順序を変更します。

【注意】

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

6.2.16 answer ip tos delete (オプション)

【機能】

TOS 値書き換え条件の削除

【入力形式】

answer ip tos delete <count>

【パラメタ】

<count>

削除する TOS 値書き換え定義を指定します。

- TOS 値書き換え定義番号
削除する TOS 値書き換え定義番号を指定します。
- all
すべての TOS 値書き換え定義を削除する場合に指定します。

【説明】

TOS 値書き換え条件を削除します。

【注意】

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

6.2.17 answer idle

【機能】

無通信監視タイマの設定

【入力形式】

answer idle <time>

【パラメタ】

<time>

- 無通信監視時間

無通信監視時間を、0 秒 ~ 3600 秒の時間で指定します。

単位は、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

0 秒を指定した場合は、監視を行いません。

【説明】

不特定相手と接続した場合の無通信監視時間を設定します。

【未設定時】

無通信監視を行わないものとみなされます。

```
answer idle 0d
```

